Ⅵ　アンケート調査（福井県）

１．高等学校へのアンケート調査

　福井県教育庁高校教育課から依頼を受けて実施した講演の際に、聴講した特別支援教育に携わる高等学校教職員に対し、発達障害生徒の高大連携のニーズと進学に関するアンケート調査を実施した。（有効回答数：26/40）

　本アンケートは発達障害支援における高等学校の実態把握が主たる目的ではなく、高等学校における発達障害傾向を有する生徒の進学指導上の問題を把握することで、大学と高校の相互補完的関係を探索することが目的である。

２．　アンケート内容

＜進路に関するアンケートにご協力ください＞　　2009.3.18

１．貴校における大学・短大進学を志望する生徒の割合はどの程度ですか？

①8割以上　②半数以上　③半数未満　④ほとんど無し

２．進学を志望する生徒の中に、発達障害の傾向による困難さ（学習、自己決定、対人関係など）を持っていると感じられる生徒はどの程度いますか？

①かなりいる（10名以上）　②少しはいる（5名程度）　③ほとんどいない　④把握していない

※その困難さは具体的にはどのようなものですか？

（　　）

３．上記の困難さを持っていると感じられた生徒に対して何らかの配慮・支援をしていますか？

①配慮している　②特にしていない

※①を選んだ方はどのような配慮をしているかお選びください。（複数回答可）

１．心理的サポート（具体的に：　　）

２．学習面のサポート（具体的に：　　）

３．進路指導上のサポート（具体的に：　　）

４．その他（　　）

４．上記の生徒にこれから必要だと思われる配慮・支援はどのようなことですか？（複数回答可）

１．心理的サポート（具体的に：　　）

２．学習面のサポート（具体的に：　　）

３．進路指導上のサポート（具体的に：　　）

４．その他（　　）

５．発達障害の傾向にある生徒の進学指導で、これまでどのような困難さを感じましたか？

（　　）

６．発達障害の傾向にある生徒の進学指導に関して、大学側からどのような情報があると、指導しやすいでしょうか？（複数回答の場合は［］に優先順位を入れて下さい）

１．大学の障害学生支援窓口の情報［　　］　２．入学試験における配慮の情報［　　］

３．修学支援の体制、内容の情報　［　　］　４．当該生徒の入学後の情報　［　　］

５．その他（　　）

７．その他、発達障害の傾向にある生徒の指導についてご自由にお書きください。

（　　）

※ ご協力ありがとうございました。

３．アンケート結果（福井県）

有効回答数　26/40
（内訳：公立高校13名、私立高校９名、特別支援学校１４名、特別支援教育センター３名、ことばの教室指導者１名）

１．貴校における大学・短大進学を志望する生徒の割合はどの程度ですか？

①8割以上　（4）
②半数以上　（6）
③半数未満　（11）
④ほとんど無し　（4）
計：25　　無回答：1

２．進学を志望する生徒の中に、発達障害の傾向による困難さ（学習、自己決定、対人関係など）を持っていると感じられる生徒はどの程度いますか？

①かなりいる（10名以上）　(5)
②少しはいる（5名程度）　(12)
③ほとんどいない　(3)
④把握していない　(1)
計：21　　無回答：5
※自由記述：その困難さは具体的にはどのようなものですか？

AS(PDD)傾向

- アスペルガー。対人関係、書き取りをしない
- アスペルガー～対人、集団行動
- アスペルガーと診断を受けた生徒はこれまで一人いた。その他では最近、対人関係が難しい生徒が入学している。増えている気がする。
- 対人関係、考え方のこだわり
- 対人関係の未熟さ、こだわりの強さ

対人関係・学力(知的も含む)

- 対人関係（本人は比較的おとなしいので自分からトラブルは起こさない）
- コミュニケーションがとれない、クラスメートと話ができない
- 対人関係の困難さでコミュニケーションを取りにくい点
- 対人関係が築けない、自己否定をするので無気力になる、学力の認識が低い
- 対人関係、学習が低い

ADHD・LD傾向

- 多動（しゃべりすぎ）、集中力（忘れ物）、算数障害？
- 通信制の高校であるため、前籍校を不登校等で転退学した生徒も多数在籍している

３．上記の困難さを持っていると感じられた生徒に対して何らかの配慮・支援をしていますか？

①配慮している　　(18)

②特にしていない　　(1)

計：19　　無回答：7

※①を選んだ方はどのような配慮をしているかお選びください。（複数回答可）

１．心理的サポート　　(12)

２．学習面のサポート　　(8)

３．進路指導上のサポート　(8)

４．その他　　（２）

※その他、及び１～３の具体例

１．心理的サポート

・ 教育相談係に気軽に相談できる
・ 自信をつけさせる
・ 相談室との連携
・ イライラしたりした時に相談にのる
・ 相談室、保健室で話を聴く
・ 理解し共感的に接する
・ クラスメートたちの理解を深める
・ スクールカウンセラーとの連絡を密にしながら進めている
・ 困ったときのカウンセリング
・ カウンセラー、養護教諭がサポート
・ 外部カウンセラーとカウンセリングの時間の確保
・ 本人との会話を中心に安心感を与えている
・ 相談室での面談による対応

２．学習面のサポート

・ 苦手科目を個別指導
・ 自分のレベルに合ったものを行っている
・ どのテキストを使い、どう勉強していけばいいかなど
・ **評価の配慮**、個別の教科支援、指導など
・ 個別の能力に合わせて学習指導
・ 苦手教科への取り組み、赤点にならないよう課題や宿題をきちんとこなす
・ **視覚的表示、前もってプランを示す**
・ **本人の得意分野を広げる**
・ 個別指導

３．進路指導上のサポート

・ 志願書、課題の見守り
・ 進路指導担当との連携
・ **一方通行的大学選び**にならないように話をする
・ 進路部で本人の希望・興味に合わせて指導している

・ 面談
・ 適性を生かす
・ **個別の生徒の希望に合わせる形でほぼ個別の指導をしているが、これで良いのか**手探り状態です。
・ 進路相談会

４．その他

・ 受け入れる側の集団の受容度を上げるための工夫を行っています。（教科指導「倫理」を使っています。）
・ クラスメートのサポート、教員間の共通理解

４．上記の生徒にこれから必要だと思われる配慮・支援はどのようなことですか？（複数回答可）

１．心理的サポート　(10)
２．学習面のサポート　(6)
３．進路指導上のサポート　(12)
４．その他　(3)

※その他、及び１～３の具体例

１．心理的サポート

・ 環境の違いによる不適応を起こさないよう
・ 困ったことがある時には相談する場所があるということを分かってもらうこと
・ 移行支援
・ 居場所の確保
・ 困ったとき以外にも心理的サポートが必要
・ 会話のできる人間関係をつくりあげてコミュニケーションを活発に行うことが必要

２．学習面のサポート

・ 不得意教科への取り組み

３．進路指導上のサポート

・ 適正な進路選択
・ 適性、能力（学習以外の部分）による将来を踏まえた進路指導
・ 適性と家族への理解
・ 本日のように発達障害支援のある大学とその内容を知りたい

４．その他

・ 大学でどのような支援を得られるか事前指導
・ 上記（発達障害傾向のある）の生徒よりも、周囲の理解と対応スキルの向上を目指す
・ 一人暮らしができるまでの本人の努力
・ 通信制という学校の特性があるので定期的、継続的なサポートをどう行っていったらいいか苦慮している
・ 富山大学の事例を参考に高校でも取り入れたい。（理学部の学生さん）

５．発達障害の傾向にある生徒の進学指導で、これまでどのような困難さを感じましたか？

※自由記述

自己理解、自己決定の困難

- 本人も保護者も能力以上の大学を望む
- （３年間クラス替えがない工業系の高校で人間関係が固定化）
- 自分の考えに固執する、他人のアドバイスを聞かない、勉強がつらくなり体調がおかしくなり学校に来なくなる
- 保護者の希望＝本人の希望となっている。大学へ行くことがベストか、また学部学科が合っているかということに踏み込めないでいる。
- 保護者の希望と本人の適性のずれ。保護者が本人の特性について理解していない場合がある。
- 自己決定だけでは本人が進学不可能な点が多く出てくること
- 本人の希望と受け入れ環境のギャップまたは適性を理解できておらず指導上の不安がつきまとう。

社会の状況、障害の認知度による困難

- 保護者も受け入れる側の大学・短大もまだまだ理解度が低い。
- 専門学校に進学する場合、支援体制がなされているのか分からない。そこまで望めないところもあるように感じる。生徒が過ごしやすいようにするためにどうつなげていったらよいのか。
- 不景気で社会全体に余裕がない。

障害特性(こだわり、対人関係)による困難

- こだわりの強い生徒達に限られた時間で進路選択をさせることは非常に困難を感じる。県内の大学については選択肢が少なく、県外に出ざるを得ない場合が多いが、引きこもりにならないか大変気になる。
- クラス内における発達障害の傾向にある生徒と他の生徒との接し方。他の生徒たちから批判続出。
- かつて本人を通じての連絡がきちんと伝わっていなかった。ちょっとしたことでも保護者に電話する必要があり大変だった。
- 面接の受け答え
- 自分本位。他の生徒の誤解を負いやすい。

６．発達障害の傾向にある生徒の進学指導に関して、大学側からどのような情報があると、指導しやすいでしょうか？（複数回答の場合は［］に優先順位を入れて下さい）

１．大学の障害学生支援窓口の情報
２．入学試験における配慮の情報
３．修学支援の体制、内容の情報
４．当該生徒の入学後の情報
５．その他

順位別人数表

	1	2	3	4	○	計
1. 窓口情報	8	3	1	0	4	16
2. 入試配慮	0	0	4	3	1	8
3. 支援体制	5	7	1	0	4	17
4. 追跡調査	1	2	5	4	2	14

※ ○は単一回答、または複数回答だが順位記入がない回答。

５．その他（自由記述）
・入試における配慮の情報は当然と受け止めています。高校入試でも求められていますから。

７．その他、発達障害の傾向にある生徒の指導についてご自由にお書きください。

※自由記述

講演のご感想、ご意見

- こんなに熱心にサポート体制を整えている大学があることに感動しました。早期教育・支援　＋　出口のサポートの大切さを実感でき、有意義な研修だった。
- 非言語コミュニケーションを必要としないメール等でのカウンセリングは自己肯定感を高めるのに効果があることは分かったが、非言語コミュニケーション能力自体は高めることはあきらめなければならないのか。
- 大学における実践例をお聞きし、よく頑張っておられると思った。高校でもしっかりやらねば・・・。
- 今日の講演は大変参考になりました。ありがとうございました。担任、カウンセラー、養護教諭の連携を密にして取り組んでいくべきだと思いました。
- 本校の卒業生も富山大学に入学している生徒がいます。高校在学中に気になっていた生徒もおり、今現在先生方にお世話になっていると思います。よろしくお願いします。本日は大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 大学との連携の窓口。富山大学の場合は良く理解できましたが他の大学ではどうなっているのか。

発達障害を取り巻く日頃の想い

- 高校の先生方の理解の仕方が小中学校の先生方とまだ差がある。
- 就職活動において面接練習を何回も行うが面接官の質問の仕方が少し変わっただけで答えられなくなる。何回（１０回ほど）練習しても向上しない。期間が１ヶ月しかなく苦労した。この不況で求人もなくつらかった。
- とにかく人的支援等の措置があって具体的に対応できる（もちろん予算も）。仕事の上積みになるのであれば、現場の教員にはオーバーワークの負担に耐え切れず、おざなりの対応しかできない。今日の講演はとても参考になりました。ありがとうございました。
- ケースが少ないので、まだ一人ずつ状況や学習能力にも差が大きく、なかなか直接的に参考になる研修に当たらない。特別支援学校のように就労に関する指導法などがまだまだできていないのが現状で進学よりも問題が大きいと思います。
- 聴覚障害と発達障害を併せ有する生徒が増えてきています。多方面と連携をとりながら進めています。

- 進路の方は現在携わっていませんので詳細が把握できず申し訳ございません。

４．まとめ

今回、進学率の低い高校はアンケートの主旨に合わず、有効回答率も６５％と比較的低くなった。ただこの結果はあらかじめ予想していたもので、本研究の対象者が発達障害傾向を有する高校生のなかでも大学、短大（高等教育課程）に進学を希望する者に限られることからやむを得ないものと考えている。

以下、アンケート結果から得られた傾向を示す。

〇高校が感じ取っている発達障害傾向を有する生徒の困り感について

- 対人関係をAS(PDD)傾向に含めると圧倒的に困り感としては自閉圏のものが多い。
- 高校の先生方にとって対人関係の困り感に対し、発達障害傾向か心因性のものかを判別できているか疑問。

〇これまで行った配慮・支援（心理面）について

- どんな相談対応かという具体的なものが出てきていない。
- 比較的具体的な記述をみても、発達障害に特化した心理サポートではない
- 教育相談や外部カウンセラーにお任せの感が強く、組織的サポートではない。

〇これまで行った配慮・支援（学習面）について

- 苦手教科への対応を意識する傾向が見える。
- 対応の多くは個別指導。
- 比較的発達障害を理解していると思われる対応もある。
- 学習指導上の困難の具体例が出てこない。

〇これまで行った配慮・支援（進路指導）について

- 進学率が高い高校からの回答に、一方通行的大学選びに対する対応や進学先との適性の配慮を心がけているというものもあった。
- まだ単純に本人の希望に合わせての進路指導が多い。
- 適正な進路選択には保護者の理解が重要との意見もあった。

〇進学指導でこれまで感じてきた困難について

- 多くの先生方が大学選択と本人の適性のミスマッチを感じており、さらに本人の大学や学部選択は保護者の意向に依存している傾向にある。
- 自己決定できない、または本人の決定に対しアドバイスが入らないと感じており指導する教員がストレスと不安を感じている。
- 発達障害に対し大学側の理解不足や支援体制がないことで、大学に送り出す側として不安を感じている教員もいる。
- 他県の大学に進学の結果、一人暮らしをすることになった際の不安が強い。

〇進学指導上、大学から提供してほしい情報について

- 支援の窓口情報と大学での支援体制の情報に対するニーズが圧倒的に高く、反して大学入学後の生徒の情報や入試における配慮の情報に対するニーズは低かった。

上記の傾向から見えてくる高大連携における高校と大学の相互補完的関係は、高校側は進学指導上で指針にするための情報（支援窓口、支援内容等）やマッチングの疑問に対するアドバイスを生徒が志望する大学から得ることを目的とし、大学側は情報を提供すると同時に実際に入学試験の段階から発達障害傾向を有する生徒の修学上の権利を保障することを目的とすることで成立できると考える。

ただし、現状では高校だけでなく社会的にも大学での発達障害者支援は知られておらず、まずは大学での支援実績とその広報活動が必要だと思われる。